



2022年1月

新年あけましておめでとうございます。今年こそは、新型コロナウイルスが終息してほしいですね。特に今年の冬は寒いので、体調管理には気をつけましょうね。寒さは、人間にとっては厳しいものとなりますが、ある動物にとっては、かけがえのない気候です。そのある動物の一例を伝える本を今回はご紹介したいと思います。

『流水の伝言 アザラシの赤ちゃんが教える地球温暖化のシグナル』小原玲著 教育出版 2009 年です。この本は、主に流氷にいるアザラシの赤ちゃんの写真と解説で構成されています。アザラシの赤ちゃんといえば、私は子どもの頃に流行ったゴマちゃんのアニメを思い出してしまうのですが、みなさんはどんな印象をもっていますか？“白いフワフワした毛に覆われて目が丸くてかわいい”と思っている方が多いと思います。このかわいいアザラシの赤ちゃんが危機に陥っているのは、みなさんご存じでしょうか？カナダなどでも起こっていることなのですが、私たちが住んでいる日本、北海道でも起こっていることなのです。

すべてのアザラシが流氷の上で産まれるわけではありませんが、北の海で暮らすアザラシの多くは、流氷の上で出産します。それは天敵のシロクマや、シャチからアザラシの赤ちゃんを守るためです。そして、この白い毛は、雪や氷の上で暮らす赤ちゃんたちを、他の動物から見つけにくくしてくれているのです。この本に載っているタテゴトアザラシの親子と一緒に暮らすのはたった2週間だけです。お母さんアザラシは子育て中の2週間は食事をしません。魚を捕りに出してしまうと、絶えず動いている流氷は形が変わってしまい、自分の赤ちゃんのところに戻れなくなってしまうからです。食事をせずに子育てできる限界が2週間ということなのでしょう。ちなみに、お父さんアザラシは子育てをしません。生まれて10日目くらいで、お母さんは泳ぎを教えるようになります。この短い子育て期間では、息つきまでしか教えることができません。お母さんが去った後は、流氷上で動くものを求めて赤ちゃんたちは集まるそうです。この流氷は、ちゃんと泳ぎを覚えるまで赤ちゃんたちを守ってくれる安全な場所なのです。

赤ちゃんたちを守ってくれている流氷が、地球温暖化によりとけ出し、命を奪っているのです。かわいいアザラシの赤ちゃんが被害に遭っている事実を、みなさんに知ってほしいです。しかし、被害はアザラシだけではありません。私たち人間が対策をしなければ、確実に生態系は崩れていくでしょう。著者の小原さんもおっしゃっていますが、自分にできることは何か考えなければなりません。みなさんも何かできることを見つけてみませんか？